

# 北見工業大学学報

第 289 号 (2018 年 9 月号)

## 目 次

学位記授与式	平成 30 年度 9 月期学位記授与式を举行……………	3
入 試	大学院入学試験を実施……………	4
	平成 31 年度学生募集要項の公表……………	6
	平成 31 年度編入学試験(第 2 次募集)実施告知……………	8
	2021 年度北見工業大学工学部入学者選抜方法の公表……………	8
研 究 助 成	平成 30 年度共同研究の受入状況……………	9
	平成 30 年度奨学寄附金の受入状況……………	10
人 事 賞	人事異動……………	11
	本学大学院生が化学工学会室蘭大会において学生賞を受賞……………	12
	地域未来デザイン工学科 杉坂純一郎助教が 電気学会優秀論文発表賞を受賞……………	13
	本学大学院生が化学工学会第 50 回秋季大会 環境部会において最優秀学生発表賞を受賞……………	14
地球環境工学科 木田真人助教がノーステック財団・理事長賞を受賞……………	15	
諸 報	子ども霞が関見学デーに出展……………	16
	おもしろ科学実験を開催……………	17
	A-STEP 説明会を開催……………	18
	「大学で学ぶサイエンス」を実施……………	19
	科研費パワーアップセミナーを開催……………	20
	平成 30 年度技術部技術員研修を実施……………	21
	遠軽高校講座を実施……………	22
2018 年度 COC+目利き塾を開催……………	23	

	イノベーション・ジャパン 2018 へ出展参加	24
	プログラミング教育に係る研修会を実施	25
	平成 30 年度第 1 回技術セミナー (建設コンサルタンツ協会 CPD 認定プログラム)を開催	26
	Matching HUB Sapporo 2018 へ出展参加	27
	リサイクルビジネスワークショップを開催	28
	学生寮消防訓練を実施	29
情 報 公 開	財務諸表等の開示	30
日 誌	8 月・9 月	31

## = 学位記授与式 =

### 平成 30 年度 9 月期学位記授与式を挙

(総務課)

9月10日(月)、平成30年度9月期学位記授与式が本学第1会議室で行われました。

授与式では、理事、副学長、事務局長、指導教員の他、修了生の関係者の方々が列席するなか、学部卒業生、大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程修了生に対し、鈴木聡一郎学長から学位記が授与され、「色々な道を歩まれることになるかと思

いますが、充実した輝かしい未来となることを心から願っております。壁が立ちはだかった際には、本学で学んだ課題解決能力、北見で過ごした経験、そして北見工業大学を卒業したことをプライドとして乗り越えてください。」との言葉がありました。

また、式終了後には記念撮影を行うなど、喜びを分かち合う姿が見られました。



鈴木学長(右)より学位記を授与される修了生



卒業生・修了生に祝辞を述べる鈴木学長

## = 入試 =

### 大学院入学試験を実施

(入 試 課)

8月20日(月)～22日(水)、平成30年度秋季及び平成31年度大学院入学試験(第1回)を実施しました。課程別専攻別の合格者数等は、下表のとおりです。

#### 平成30年度(秋季)博士前期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械工学専攻	若干人	0	0	0
社会環境工学専攻		0	0	0
電気電子工学専攻		0	0	0
情報システム工学専攻		1	1	1
バイオ環境化学専攻		1	1	1
マテリアル工学専攻		0	0	0
合計		2	2	2

#### 平成30年度(秋季)博士後期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	若干人	0	0	0
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻		3	3	3
医療工学専攻		0	0	0
合計		3	3	3

平成 31 年度博士前期課程(第 1 回募集)

専攻名	入学定員	募集人員			志願者			受験者			合格者			
		一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	
機械工学専攻	22	11	若 干 人	22	18	0	24	18	0	24	18	0	24	
		11				6			6			6		
社会環境工学専攻	20	10		20	20	1	27	20	1	25	20	1	25	
		10				6			4			4		
電気電子工学専攻	20	10		20	10	0	16	10	0	16	10	0	16	
		10				6			6			6		
情報システム工学専攻	16	8	16	9	0	11	9	0	11	9	0	11		
		8			2			2			2			
バイオ環境化学専攻	18	9	18	6	0	10	6	0	9	6	0	9		
		9			4			3			3			
マテリアル工学専攻	16	8	16	15	0	22	15	0	22	15	0	22		
		8			7			7			7			
合計	112		112				110			107			107	

※一般入試の上段は推薦入試、下段は学力試験入試

※特別入試は外国人留学生特別入試及び高等専門学校専攻科生特別入試の合計

平成 31 年度博士後期課程(第 1 回募集)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	3	3	3	3
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	3	3	3
医療工学専攻	2	0	0	0
合計	8	6	6	6

## 平成 31 年度学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 31 年度北見工業大学学生募集要項（一般入試・特別入試）が公表されました。募集要項の主な内容は以下のとおりです。募集要項の配布は入試課窓口で行っております。

### 募集人員

学科・コース名		入学 定員	募集人員			
			前期 日程	後期 日程	推薦 入試	帰国子女 入 試
地球環境工学科	エネルギー総合工学コース	190	76	66	48	両学科とも 若干人
	環境防災工学コース					
	先端材料物質工学コース					
	地域マネジメント工学コース					
地域未来デザイン工学科	機械知能・生体工学コース	220	88	77	55	
	情報デザイン・コミュニケーション工学コース					
	社会インフラ工学コース					
	バイオ食品工学コース					
	地域マネジメント工学コース					
工 学 部 合 計		410	164	143	103	

※ 入学後 2 年次前期までは学科で基礎教育等を学習し、2 年次後期から本人の志望及び学業成績により学科内のコースに配属します。

### 《注意事項》

- ① 後期日程の募集人員には、両学科とも特別入試（帰国子女入試）の募集人員若干人を含みます。
- ② 特別入試（推薦入試）の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

一般入試	特別入試（推薦入試・帰国子女入試）
<p>1. 募集人員 別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 31 年 1 月 28 日（月）～2 月 6 日（水）</p> <p>3. 個別学力試験の期日 前期日程：課さない 後期日程：平成 31 年 3 月 12 日（火）</p> <p>4. 合格者の発表 前期日程：平成 31 年 3 月 6 日（水） 後期日程：平成 31 年 3 月 20 日（水）</p> <p>5. 入学手続期間 前期日程：平成 31 年 3 月 7 日（木）～3 月 15 日（金） 後期日程：平成 31 年 3 月 21 日（木）～3 月 27 日（水）</p> <p>6. 追加合格通知期間 当初の合格者で入学定員に満たない場合は、平成 31 年 3 月 28 日（木）から合格者の追加を行います。</p>	<p>1. 募集人員 別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 30 年 11 月 1 日（木）～11 月 8 日（木）</p> <p>3. 選抜試験の期日 平成 30 年 11 月 30 日（金） （志願者が多数の場合は翌日に及ぶ場合もあります。）</p> <p>4. 合格者の発表 平成 30 年 12 月 12 日（水）</p> <p>5. 入学手続期間 平成 31 年 1 月 21 日（月）～1 月 25 日（金）</p>

個別学力検査日時・会場

期 日	教 科	時 間	会 場
平成 31 年 3 月 12 日（火）	数学	9：30～11：30	北見工業大学、東京会場（タイム 24 ビル）又は大阪会場（大阪商業大学）
	理科	12：50～14：20	

## 平成 31 年度編入学試験（第 2 次募集）実施告知

（入 試 課）

平成 31 年度編入学試験（第 2 次募集）を実施します。詳細については、本学ホームページをご覧ください。

（該当 URL <http://www.kitami-it.ac.jp/topics/12763/>）

## 2021 年度北見工業大学工学部入学者選抜方法の公表

（入 試 課）

2021 年度北見工業大学工学部入学者選抜方法の公表をしました。新たな「総合型選抜」などを含めた詳細については、本学ホームページをご覧ください。

（該当 URL <http://www.kitami-it.ac.jp/topics/30590/>）



## = 研究助成 =

### 平成30年度共同研究の受入状況

平成30年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
地域未来デザイン工学科	教授	小西 正朗	乳酸菌培養における天然基材組成の影響解析	北海道糖業株式会社
地域未来デザイン工学科	助教	本間 雄二郎	バイオ活性水の植物生長促進効果に関する研究	株式会社環境ダイゼン
地球環境工学科	教授	大野 智也	炭素素材とホタテ貝殻粉末を複合化させた圃場散布用融雪剤の開発	株式会社常呂町産業振興公社
地球環境工学科	准教授	中村 大	風化と凍結による岩盤斜面の被害とその対策	北見土木技術協会
地域未来デザイン工学科	教授	新井 博文	ハマナスや未利用資源を利用した抗アレルギー等素材の開発	北見市／企業組合北見産学医協働センター
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	積雪寒冷地のコンクリート床版の劣化メカニズムに関する研究	株式会社アサヒ建設コンサルタント
地球環境工学科	准教授	岡崎 文保	触媒反応による高純度メタンからのグラフェン（ナノカーボン）の製造	東京ガスケミカル株式会社
地球環境工学科	准教授	武山 眞弓	遷移金属系材料の特性評価及び成膜技術の研究	株式会社富士通研究所デバイス&マテリアル研究所
地球環境工学科	教授	大津 直史	レーザー窒化による鉄鋼材料高耐久化に関する研究	中日クラフト株式会社

平成30年度 累計87件

## 平成30年度奨学寄附金の受入状況

平成30年9月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額
北見工業大学学務課			トランボリン新規購入の為	北見工業大学トランボリン競技部 OB会 北藤会	円 800,000
社会連携推進センター	教授	有田 敏彦	オホーツク地域の行政・民間団体との共同研究・研究交流、及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 社会連携推進センター推進協議会	1,670,000
地球環境工学科	教授	阿部 良夫	無機エレクトロクロミック薄膜材料の研究支援の為	スタンレー電気株式会社	900,000
地域未来デザイン工学科	教授	小西 正朗	FOOMA JAPAN 2018 アカデミックプラザ参加に伴う資料等作成費補助(発表要旨作成費も含む)として	小西 正朗	30,000
地域未来デザイン工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	日本工営株式会社	324,000
地域未来デザイン工学科	准教授	渡辺 美知子	機械工学の研究	ドゥウェル株式会社	300,000
工学部	特任教授	大橋 鉄也	工学研究のため	企業組合北見産学医協働センター	1,206,616
	学長	鈴木 聡一郎	教育研究のため	北見工業大学生活協同組合	548,056
	学長	鈴木 聡一郎	教育研究のため	株式会社アペックス北海道支社	149,767
	学長	鈴木 聡一郎	教育研究のため	株式会社伊藤園	447,392
	学長	鈴木 聡一郎	教育研究のため	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	678,314
地域未来デザイン工学科	助教	杉坂 純一郎	工学研究のため	杉坂 純一郎	100,000
	学長	鈴木 聡一郎	大学広報等への支援他	北見工業大学後援会	801,900

平成30年度 累計57件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
30. 9. 1	入試課事務職員	浅野 竜也	総務課事務職員
〃	総務課事務職員	山上 雅之	入試課事務職員
30.10. 1	工学部准教授	武山 眞弓	工学部教授
〃	工学部准教授	榊井 文人	工学部教授

## = 受賞 =

### 本学大学院生が化学工学会室蘭大会において学生賞を受賞

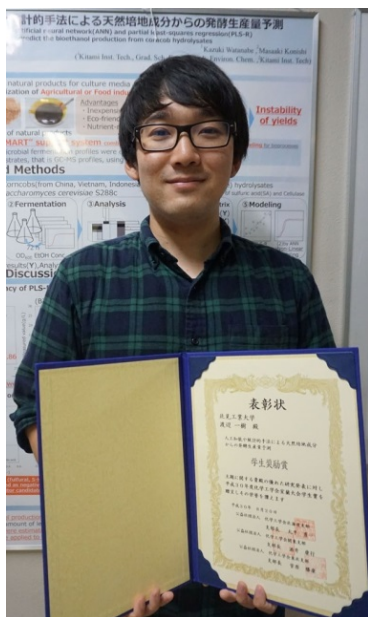
(バイオ環境化学専攻)

8月20日(月)、21日(火)に開催された化学工学会室蘭大会において、本学大学院生の湯浅葉月さん(バイオ環境化学専攻2年、指導教員:菅野亨准教授)が「学生特別賞」を、渡辺一樹さん(同2年、指導教員:小西正朗教授)、吉田木綿子さん(同2年、指導教員:菅野亨准教授)、山中靖子さん(同1年、指導教員:同)がそれぞれ「学生奨励賞」を受賞しました。

湯浅さんは「アパタイトにおける抗がん試薬の吸脱着挙動と応用」という題目で、

渡辺さんは「人工知能や統計的手法による天然培地成分からの発酵生産量予測」、吉田さんは「ハイドロタルサイトにおける陰イオン及び薬剤の吸脱着挙動」、山中さんは「金上のアパタイトにおけるタンパク質及び薬剤の吸脱着特性」という題目で発表を行いました。

今大会において、関東、東北支部の学生さんがいる中での受賞ということもあり、本人達にとって良き思い出になることと思っています。



渡辺さん



湯浅さん、山中さん、吉田さん(左から)

## 地域未来デザイン工学科 杉坂純一郎助教が 電気学会優秀論文発表賞を受賞

(地域未来デザイン工学科)

この度、地域未来デザイン工学科の杉坂純一郎助教が、電気学会 基礎・材料・共通部門の優秀論文発表賞を受賞しました。本賞は、2017年に電気学会 基礎・材料・共通部門の研究会で発表を行った若手研究者から選出され、贈呈される賞です。

発表の内容は、形状が分からない微粒子に光を照射し、その散乱光から物体の形状

を推定するための新たな方法を提案したものです。顕微鏡でも見ることのできない微粒子についても、表面の凹凸の様子を詳細に知ることができるようになり、バイオ、医療、機械、土木などの幅広い分野で、高精度な観測・検査技術の確立が期待できます。

発表者及び論文の題目は以下の通りです。

杉坂純一郎，安井崇，平山浩一，“散乱光の相対強度情報を用いた散乱体の形状推定” EMT-17-111 (2017).



## 本学大学院生が化学工学会第50回秋季大会 環境部会において最優秀学生発表賞を受賞

(バイオ環境化学専攻)

このたび、本学大学院生の大岩真子さん（博士前期課程 バイオ環境化学専攻 2年、指導教員：齋藤 徹教授）が化学工学会第50回秋季大会環境部会において、最優秀学生発表賞を受賞しました。

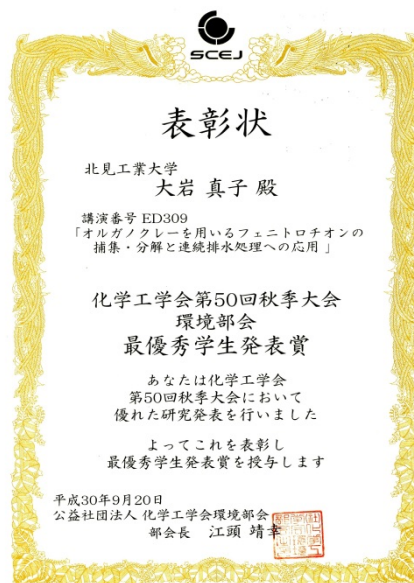
本研究発表会において、大岩さんは「オルガノクレーを用いるフェニトロチオンの捕集・分解と連続排水処理への適用」という題目で発表しました。

フェニトロチオンは有機リン系殺虫剤と

して汎用されていますが、環境への拡散による甲殻類や魚類の個体数の減少が報告されています。本発表は、界面活性剤を安定的に吸着させた土への水中フェニトロチオンの捕集要因の解明、分解・低毒化現象の発見および排水処理への応用に関するものであり、世界的な農業生産の拡大に伴う地球規模での農薬の拡散に対する持続的な水源環境保全技術として高く評価されました。



大岩さん



表彰状

## 地球環境工学科 木田真人助教がノーステック財団・理事長賞を受賞

(地球環境工学科)

この度、地球環境工学科 木田真人助教が、公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（略称：ノーステック財団（NOASTEC））より、ノーステック財団・理事長賞を受賞しました。

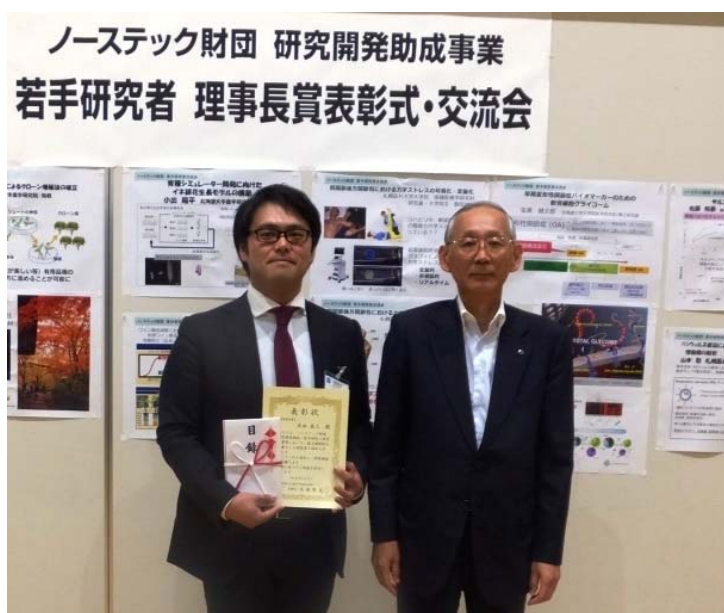
本賞は、ノーステック財団の研究開発助成事業の一つである若手研究人材育成事業「平成30年度若手研究人材・ネットワーク育成補助金（ノースタレント補助金）」に採択となった、若手研究者（応募118件中

21件）の中から、特に独創的な研究提案と認められた研究者1名に贈呈されるものです。

研究開発テーマである「自然冷熱と包接水和物を活用したバイオガス精製技術に向けた基礎研究」は、北海道特有の低温外気等を利用して生成可能な包接水和物のメタンとCO<sub>2</sub>の分離特性を解明し、低温外気等を活用したバイオガス精製技術に向けた検討を行うことを目的としています。

平成30年度「研究開発助成事業」の採択について

<https://www.noastec.jp/web/news/details/kekka30.html>



受賞した木田助教（左）と  
ノーステック財団 高橋賢友理事長

## ＝ 諸報 ＝

### 子ども霞が関見学デーに出展

(総務課)

8月1日(水)、2日(木)に行われた「子ども霞が関見学デー」のプログラムの1つとして、「雪と氷の世界を感じてみよう～クリオネを見よう・流氷にさわろう・カーリングを知ろう～」と題し、文部科学省2階のエントランス前に出展しました。

雪の結晶をモチーフとしたオリジナルアクセサリーと氷のミニカーリングストーン作り、クリオネの展示、そして北海道から持ち込んだ流氷に子どもたちは大喜びの様子で、子どもたちに多くのことを体験してもらおうと同時に、本学周辺の自然環境や科

学の面白さについて知ってもらいました。

1日(水)には、本学修了生で平昌冬季五輪に出場した平田洸介選手が来場し、カーリング体験を実施しました。平田選手の声に合わせてスイーピング(ブラシで氷をはく動作)体験をした子どもたちは、初めて触るカーリングブラシと初めて見るカーリング選手に目を輝かせていました。

連日猛暑の中での開催となりましたが、2日間で3,454人の子どもたちが文部科学省を訪れ、本学のプログラムも大盛況でした。



氷のミニカーリングストーン作り



クリオネの展示



流氷を触って遊ぶ子どもたち



平田選手とカーリング体験



## おもしろ科学実験を開催

(学術推進機構)

8月4日(土)、小・中学生を対象に実験やものづくりを通じて子供たちの理科離れを防ぐとともに、科学への興味を喚起することを目的として、「おもしろ科学実験」を開催しました。

今年で19回目となる同イベントには、22テーマに対して延べ591人が参加し、子供たちは希望したテーマに真剣に取り組んでいました。参加した子供たちからは、「電気で動くロボットを作りたい」、「電磁石の実験

がしたい」、「雲や氷の結晶を作りたい」、「来年もおもしろい実験がしたい」など、様々な感想が寄せられました。

また、実験やものづくりの指導を担当した学生にとっては、教えることの難しさ、準備や工夫の大切さや安全への配慮などを学ぶ好機となりました。

今後も特色ある社会貢献イベントの一つとして、この事業を継続していく考えです。



ホタテの貝殻で水をきれいにする



火おこしにチャレンジ!



生命の設計図を取り出す～DNA抽出～



2本足で歩くエコロボットを作ろう

## A-STEP 説明会を開催

(研究協力課)

8月8日(水)、本学3号館ミーティングルーム2において「A-STEP説明会」を開催しました。

A-STEPは大学・公的研究機関等で生まれた国民経済上重要な科学技術に関する研究成果を基にした実用化を目指す研究開発フェーズを対象とした技術移転支援プログラムです。

説明会では、国立研究開発法人科学技術振興機構からマッチングプランナーの伊藤公裕氏をお招きし、全体説明としてA-STEPの概要をお話いただきました。

その後、希望者に対して1人1時間程度の個別相談を行い、作成中の申請書などを基にアドバイスをいただきました。



伊藤氏による全体説明



熱心に耳を傾ける参加者

## 「大学で学ぶサイエンス」を実施

(学務課)

8月8日(水)、10日(金)に「大学で学ぶサイエンス」を実施しました。

本事業は、地域の高校生を対象に、大学の高度な教育・研究に触れる機会を拡充することを目的として毎年行っているもので、今年で16回目の開催となりました。

8月8日(水)には、「災害に強い街をつくれ!～丈夫な地盤と締固め(しめがため)～」と題し、地球環境工学科の川口貴之准教授及び川尻峻三助教が体験学習を行いました。

北見市の他、オホーツク管内から21人の高校生が集い、楽しみつつも真剣に防災について考えていました。参加者は、強い土、そして強い地盤をつくる実験を行い、班毎にレポートをまとめて発表を行いました。

8月10日(金)にも、オホーツク管内の高校生20人が参加し、地球環境工学科の高橋理音准教授が講師となり、「電気エネルギーを学ぶ～水力発電実験を通して電気回路の特性を測ろう～」と題して講義が行われ、小さな水車を使って水道水で発電実験を行うなど、楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

参加した高校生からは、「難しい内容だったけど、先生と大学院生が優しくわかりやすく教えてくれて理解できた」、「普段できない実験ができて楽しかった」などの感想が寄せられました。

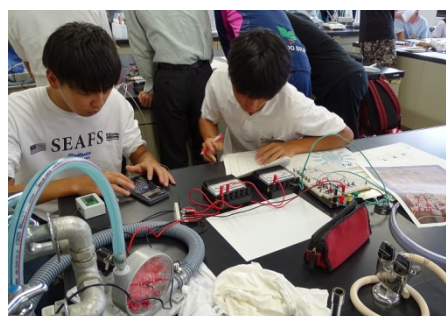
本学では今後も本事業を継続するとともに、地域の高校との更なる連携強化を図っていこうと考えています。



講義の様子



地盤を揺らすとどうなるか?



電力・電圧確認中



実験結果をレポートにまとめる

## 科研費パワーアップセミナーを開催

(研究協力課)

8月9日(木)、本学3号館多目的講義室において科研費パワーアップセミナーを開催しました。

今年度のセミナーでは、名古屋大学大学院工学研究科 関隆広教授から名古屋大学での日々の活動を基に、「名古屋大学での研究活動の一端」と題した講演があり、関教授の研究活動や、実体験を交えた計画調書の作成にあたっての工夫点、審査委員経験者の立場からの留意点など、科研費採択に

向けたアドバイスをいただきました。

本セミナーには、本学教職員のみならず日本赤十字北海道看護大学からも参加があり、40人以上の参加者が講演に耳を傾けました。参加者からは、「申請書作成の重要なポイントについて様々なヒント、アドバイスを受けることができた」、「アピールするキーワードをいただいた」等の感想があり、科研費申請について理解を深めていました。



講演をする関教授



熱心に話を聞く参加者



質疑応答をする参加者と関教授

## 平成 30 年度技術部技術員研修を実施

(技術部)

8月21日(火)、平成30年度技術部技術員研修を多目的講義室を会場に実施しました。

この研修は、技術員が職務を通じて習得した技術成果及び業務内容を発表し、技術的交流と相互の資質向上を図ることや、職務に関する必要な知識を広く習得することを目的として毎年実施しております。午前の研修は三上修一技術部長による開講の挨拶で始まり、榮坂俊雄副学長より「大学とは何か、どこへ向かうのか？—大学改革、連携、そして技術部—」と題した講演が行われ、高等教育の歴史的な経緯から始まり、本学を含めた大学の課題に続いて三大学連携に関して詳しく説明された後、技術部への期待を述べられました。

続いて三上技術部長から「土木構造物の

維持管理技術」と題した講演が行われ、重要な社会インフラである橋の経年劣化の現状と橋梁点検に関する研究が紹介されました。午後からは技術員4名による「技術発表」、作製したセンサー機器、パソコンプログラムの実演があり、例年にも増して工夫された発表でした。

百武欣二グループ長からは「機械屋のものづくり40年」と題した先輩講話が行われ、古き良き時代の懐かしい写真、創意工夫・苦勞した実験装置の思い出などを話されました。

最後に中西喜美雄室長から「奨励研究の申請・組織の見直しについて」と題する講演が行われ、山根美佐雄室長の閉講の挨拶で研修は終了しました。



榮坂副学長による講演



三上技術部長による講演



百武グループ長による講演



技術発表における実演

## 遠軽高校講座を実施

(学 務 課)

8月24日（金）、北見工業大学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づく遠軽高校講座を実施しました。

本協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成25年度に締結したもので、この協定に基づきいろいろな事業を展開しています。その中でも遠軽高校講座は、遠軽高校生に大学で行っている教育・研究を大学で体験してもらう事業で、協定締結から毎年開催し、今年で6回目の実施となりました。

今年のテーマは「クリーンエネルギーの化学 -水素製造と燃料電池-」で、遠軽高校生11人が参加しました。参加者は、地球環境工学科 岡崎文保准教授からエネルギー

の枯渇問題や燃料電池の原理などについて講義を受け、昼食も学生食堂でひと足早い大学生気分を味わっていました。また、午後からは実験を行い、太陽光による発電と燃料電池による発電、どちらの方が効率よく発電できるのかを考察しました。その後、実験や考察の結果をレポートにまとめ、講師や実験アシスタントの本学学生を前に、緊張しながらも堂々と発表を行いました。

参加した高校生からは、「講義がとてもわかりやすく、実験も楽しかった」、「進路決定の参考になった」などの感想が寄せられ、充実した1日となった様子でした。

本学では、今後も本事業を継続するとともに、遠軽高校との高大連携協力の更なる連携強化を図っていこうと考えています。



講義の様子



大学生と一緒に昼食



太陽光で発電中



レポート作成

## 2018 年度 COC+目利き塾を開催

(学長企画室)

8月29日(水)、北海道内の金融機関関係者やオホーツク地域の産業振興関係者等を対象に、2018年度COC+目利き塾を開催しました。

本塾は、平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択を受けた『オール北海道雇用創出・若者定着プロジェクト「ものづくり・人材」が拓く「まち・ひと・しごとづくり」』の取り組みとして、技術シーズの事業化をプロデュースできる人材の養成を目的に開催したもので、金融機関関係者及び産業振興関係者16人が受講しました。

第一部の企業見学で、受講者は、先進的な木材加工企業である丸玉木材株式会社の津別工場を見学し、地域の第一次産品を加工する第二次産業についての理解を深めました。

第二部のセミナーでは、産学連携学会・学金連携システム研究会の小野浩幸氏(山

形大学教授)が「金融仲介と産学連携」と題した講義を行い、続いて、本学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター長の村田美樹教授が「一次産業と工学」と題した講義を行いました。その後、COC+コーディネーターの鞆師守特任教授が進行役となり、受講者は活発な意見交換・討議を行い、「金融機関と高等教育・研究機関の連携に関する全体像」や「オホーツク地域を特色づける第一次産業と工学との関連」についての理解を深める良い機会となりました。

参加者からは、「日々の業務の中では、このような研修に参加する機会が少ないので有意義な時間でした」、「またこのような機会があれば参加したいと思います」などの感想が寄せられ、今後の業務への一助となることが期待されます。

本学では、引き続き産学官金の連携を強化し、地域の雇用創出、若者定着の取り組みを推進することとしています。



進行役を務めるCOC+コーディネーター鞆師特任教授

## イノベーション・ジャパン 2018 へ出展参加

(社会連携推進センター)

8月30日(木)、31日(金)の2日間、東京ビッグサイトを会場に開催されたイノベーション・ジャパン2018に出展参加しました。本展示会は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントです。

全国の大学・高専から400の出展者が集まり、研究成果や開発技術の展示、セミナー等が行われました。会場では大学組織展示・プレゼンテーションも行われ、各大学の重点的な取り組みが紹介されました。

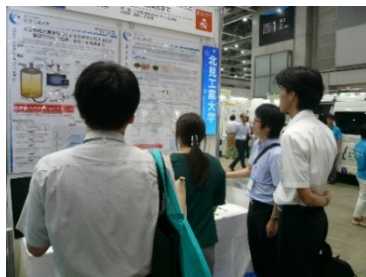
本学からは、超スマート社会ゾーンに地域未来デザイン工学科 小西正朗教授が取り組む「人工知能と成分分析による天然物の見える化と製造プロセス応用：食品～医薬品まで」、環境保全・浄化ゾーンに地球

環境工学科 齋藤徹教授が取り組む「洗剤と土や空気を用いる水の浄化技術」、そして地域未来デザイン工学科 兼清泰正准教授が取り組む「家庭で手軽にできる環境・健康診断に向けた色調変化型センサー」の3つの研究について紹介を行いました。

ブースでは試作品による実演やサンプルの展示も行われ、研究者による説明に来場者が熱心に耳を傾ける様子が見られました。

本展示会は、出展する技術の背景となる社会状況や関連市場などの情報を得ることができる貴重な機会であることから、本学においても研究力向上につながる展示会として重視しています。

イノベーション・ジャパンへの出展の実現には、厳しい審査をクリアする必要がありますが、本学のプレゼンス向上に大きく寄与できる場でもあることから、今後も出展に向け挑戦していきます。



小西教授(写真右から2人目)



齋藤教授(写真右)



兼清准教授(写真左)



## プログラミング教育に係る研修会を実施

(学術推進機構)

9月4日（火）、5日（水）に本学と北見市教育委員会との連携事業として、小・中学校の教諭を対象としたプログラミング教育に係る研修会を実施しました。

これは平成32年度から小学校の新学習指導要領に新たにプログラミング教育が導入されることに伴い、プログラミングについて理解を深め、各学校において円滑な指導を実施することを目的としています。

研修に先立ち、北見市教育委員会学校教育課指導室主幹の尾島康人氏から「プログラミング教育について」と題して、当研修のねらいと新学習指導要領におけるプログラミング教育の位置づけについ

てご講話いただきました。

その後、本学技術部職員による指導のもと、実際にプログラミングソフトを使って『じゃんけん』のルールを用いてキャラクターが動くミニゲームを作成する課題に取り組みました。参加者からは「思ったように動作しない」、「設定の値をどう入力すべきか」などの質問が多数出ていましたが、研修時間内に全ての参加者がミニゲームを完成させることが出来ました。

研修終了後も、参加者から当日使用したプログラミングソフトに関する質問などがあり、非常に有意義な研修となりました。



尾島氏の講話の様子



研修会の様子

## 平成30年度第1回技術セミナー (建設コンサルタンツ協会CPD認定プログラム)を開催

(研究協力課)

9月13日(木)、平成30年度第1回「技術セミナー」(建設コンサルタンツ協会CPD認定プログラム)を、本学3号館多目的講義室で開催しました。

9月6日未明に発生した「北海道胆振東部地震」によって、参加申し込みをいただいた中にも復旧に向けて取り組んでいる方も多く、開催については判断が難しかったところですが、既に多くのお申し込みを頂いていることから、予定通り開催することにしました。

本セミナーは、地域貢献活動の一環として、土木・建設関係技術者に最新の技術動向及び建設コンサルタントを取り巻く状況等についての理解を深めてもらうために平成23年から実施しているもので、今年で8回目となる建設コンサルタンツ協会の認定講座です。受講者アンケートの要望に応え、今年度も昨年度に引き続き第2回目の開催

を予定しています。

セミナーでは、「これからの社会資本整備を考える2018-I」をテーマに、本学地球環境工学科 川尻峻三助教、駒井克昭准教授、地域未来デザイン工学科 宮森保紀准教授及び株式会社豊水設計 佐藤信之海洋環境計画部長ら4人の講師が講演しました。直前まで「北海道胆振東部地震」の現場で調査していた講師からは、現地の様子を交えて講演いただき、参加者にとっては非常に貴重な内容となりました。

セミナーには設計、測量、コンサルタント関係の技術者や、北海道職員などオホーツク地域を中心に75人に参加いただきました。土木・建築に携わる関係者にとって、今回は特に重要なテーマであったことから、講師の説明に真剣な表情で耳を傾けるとともに、活発な質疑応答が交わされました。



(株)豊水設計 佐藤講師による講演



受講の様子

## Matching HUB Sapporo 2018 へ出展参加

(社会連携推進センター)

9月20日(火)、札幌パークホテルを会場に開催されたMatching HUB Sapporo 2018に出展参加しました。Matching HUBは、北陸先端科学技術大学院大学が金沢で始めた産学官金連携の促進を目指したイベントです。

小樽商科大学が金沢のMatching HUBのノウハウを活用し、2度目の開催となりました。北海道での研究者と事業者のマッチングを促進し、共同研究及び大学間連携の活性化を図ることを目的としており、道内外の研究機関や企業・団体が参加しています。

本学も後援団体として参加し、開会式には渡邊康玄副学長と有田敏彦社会連携推進センター長が出席しました。

本学からは、地域未来デザイン工学科 小西正朗教授が取り組む研究紹介と、地球環境工学科 中村大准教授が取り組む研究について紹介しました。現地では小西教授の研究室に所属する大学院生の渡辺一樹さん

と中村准教授が説明を行いました。

また、今年新たに設けられた学生ブースでは、社会環境工学科4年の長谷優之介さんと平井泰輔さんが、2・3年次の技術者育成カリキュラムで実施している、「オホーツク総合演習(地域で活躍する実務者の講演やフィールドワークを通じて、地域の課題を調査・発見、解決策を学生目線で提案)」で取り組んだ「北見市に農業高校の設置を」という提案について紹介を行いました。会場では3分間のミニセミナーも行われ、多くの来場者の関心を集めました。

Matching HUBは金沢では既に数回開催され、規模が徐々に拡大しています。北陸地方だけにとどまらず、全国へ出展技術を紹介できる場として参加者も全国におよんでいます。

今後も小樽商科大学と連携をはかりながら、本学も積極的な出展の継続を考えています。



中村准教授



渡辺さん



平井さん(左)・長谷さん(右)

## リサイクルビジネスワークショップを開催

(社会連携推進センター)

9月25日(火)、「循環型社会におけるリサイクルビジネスの一考察」と題し、株式会社花王と、米国企業のテラサイクルジャパンが共催し、リサイクルビジネスワークショップを開催しました。

本学教職員とマネジメント工学コースを中心とした学生の他、学外からの参加がありました。

午前中はテラサイクル研究開発部のグローバル責任者であるアーニー・シンプソン博士が、循環型社会の本質や循環形社会の推進および維持の実現に向け、テラサイクルが取り組んでいるパッケージなどをはじめとする廃棄物を世界各国で回収・リサイ

クルする方法について講演を行いました。

午後からはワークショップが行われ、3つのグループに分かれた参加者が意見交換を行い、循環型社会への理解をより深めました。前日には社会連携推進センターを会場に、共催期間の関係者と学生を中心とする参加者との交流会も行われました。

今回のワークショップは、私たちの日常生活で身近に存在するあらゆるものが環境への影響を与えていることや、それら課題解決に向け、私たちができることをあらためて考えさせる場として貴重な機会となりました。



講演会の様子

## 学生寮消防訓練を実施

(学務課)

9月27日(木)、北苑寮と北桜寮において、約40人の学生(寮生)が参加し、消防訓練を実施しました。北桜寮の避難訓練から始まり、北苑寮の避難訓練、消火器取扱訓練、屋内消火栓の取扱訓練を実施しました。

避難訓練は北苑寮、北桜寮どちらも寮生が火事を発見したことから始まり、寮生で組織された自衛消防隊は、消防への通報連絡や寮生の避難誘導などの任務にあたりま

した。

避難訓練終了後は、消火器取扱訓練、屋内消火栓の取扱訓練を実施しました。消火器取扱訓練では、使用説明の後、本物の消火器の代わりに水消火器を使い、消火訓練を行いました。

今年度の消防訓練も寮生が真剣に取り組む様子が見受けられ、学生寮における消防訓練は無事に終了しました。



通報する北苑寮生



消火器の取扱訓練

## = 情報公開 =

### 財務諸表等の開示

(財 務 課)

国立大学法人法に基づき、平成 30 年 8 月 31 日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成 29(第 14 期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む)及び関係書類を本学ホームページ (<http://www.kitami-it.ac.jp/about/info-about-kitami/>)に掲載しましたので、お知らせします。

## = 日誌 =

### 8 月

- 3日 推薦入学者選抜実施委員会
- 4日 おもしろ科学実験
- 6日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8日 A-STEP説明会、大学で学ぶサイエンス  
(10日)
- 9日 科研費パワーアップセミナー
- 20日 平成30年度秋季・平成31年度大学院工学研究  
科博士前期課程入学試験（～21日）
- 22日 広報委員会、平成30年度秋季・平成31年度大  
学院工学研究科博士後期課程入学試験
- 24日 研究支援室会議、遠軽高校講座
- 27日 実践的教育プログラム評価外部委員会
- 30日 教務委員会

### 9 月

- 3日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 4日 プログラミング教育に係る研修会（～5日）、  
入学者選抜委員会
- 5日 教授会、研究科委員会、平成30年度秋季・平  
成31年度大学院入学試験合格発表
- 6日 平成30年度秋季大学院入学手続（～14日）
- 10日 学位記授与式
- 12日 教育研究評議会
- 13日 経営協議会、学長選考会議、役員会、技術セミ  
ナー（建設コンサルタンツ協会CPD認定プログ  
ラム）
- 14日 発明審査委員会
- 19日 社会連携推進センター運営会議
- 20日 教務委員会
- 24日 リサイクルビジネスワークショップ
- 27日 平成31年度編入学試験（第2次募集）実施告  
知、2021年度北見工業大学工学部入学者選抜  
方法の公表
- 28日 就職ガイダンス